

(報道発表資料)
令和5年11月21日
北九州市保健福祉局感染症医療政策課
(担当:河崎、奥)
電話:093-582-2430

マラリアの発生について

市内において、マラリア(4類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 概要** 令和5年11月20日(月)、市内B医療機関(小倉北区)からマラリアの発生届出があった。
- 患者情報** 35歳、男性
- 経過** 10月30日(月) 海外(アフリカ南東部)から入国。
11月 6日(月) 関節痛、頭痛あり。
11月10日(金) 発熱(39~40℃)あり、症状続くため、A 医療機関を受診。
B 医療機関への受診を調整。
11月13日(月) 発熱(38.4℃)あり。B 医療機関を受診し、血液検査実施。
治療のため、C 医療機関を受診し、入院。
11月17日(金) 症状軽快し、退院。
11月20日(月) 検査の結果、マラリア(熱帯熱)と診断。
- 現在の状況** 症状なし。
- 行政対応** 患者等に対する健康調査の実施。

6 マラリアの北九州市への届出状況(令和5年11月21日現在)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
発生届出数 (単位:人)	0	0	0	0	0	1 (本件を含む)

7 その他

患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。

8 マラリアについて 別添参照

《マラリアについて》

➤ マラリアとは

マラリアは、マラリア原虫(Plasmodium)という寄生虫を持った蚊(ハマダラカ)に刺されることで感染する病気で、アジア、アフリカ、オセアニアおよび中南米の熱帯・亜熱帯地域で流行しています。国内での報告例は輸入例に限られています。これらの地域に渡航する場合は、マラリアに感染しないように注意が必要です。

ヒトのマラリアは、5種類【熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリア、二日熱マラリア(サルマラリア)】があります。

➤ 症状

主な症状は、発熱、寒気、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛などです。

マラリアへの免疫をもたない人では、通常、感染した蚊に刺されてから10日～15日で、症状が現れます。熱帯熱マラリアは発症から24時間以内に治療しないと重症化し、死に至ることもあります。脳症、腎症、肺水腫、出血傾向、重症貧血など、さまざまな合併症がみられます。

➤ 感染経路

マラリア原虫に感染した蚊(ハマダラカ)に刺されることで感染します。ヒトからヒトに直接感染するような病気ではありません。輸血や針刺し事故などからの感染が考えられる症例も報告されています。

➤ マラリア流行地域へ渡航する場合の予防のポイント

(1)防蚊対策

ハマダラカは主に夕暮れから明け方にかけて活動します。マラリア流行地域に行かれた際は、できるだけ蚊に刺されないよう、防蚊対策を心がけましょう。

- ・長袖シャツ、長ズボンを着用し肌の露出を減らす
- ・虫除けスプレーや蚊取り線香等を上手に使う。

(2)予防薬

マラリア流行地へ渡航する際は、抗マラリア薬の予防内服を行うことが望ましいとされています。マラリア予防薬は、医師の処方が必要です。ご自分の体調や渡航先について事前に専門医へ相談してください。予防薬を服用していても感染することがあるため、防蚊対策は必要です。

流行地に入ってから7日目以降にマラリアを疑う症状が出た場合、速やかに医療機関を受診してください。